

令和7年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

GIGA スクール構想による教育実践を深化させ、新しい学びの在り方へと進化を図るべく、学校アクションプランの各重点項目を策定した。

本年度はスクールポリシーの可視化、スマホ利用の自己管理、新入試に対応した進路指導、環境美化、PTA活動の活性化等に注力した。取組の結果、独自調査（前向きな学びアンケート）で生徒の自律心向上にエビデンスが得られるなど、多くの項目でA・B評価を得ることができた。一方で、ICT環境の整備格差や、多様化する生徒への個別対応、教員の業務負担軽減が依然として課題である。

学校評議員からは、本校の教育活動に対し、専門的かつ建設的な示唆をいただいた。自律心向上については、単なる数値把握に留まらず、向上の要因を深掘りし他の生徒へ水平展開すべきである。スマートフォンの危険性については、生徒の認知度は高いものの、保護者のフィルタリング設定率の低さが懸念されるため、入学時講習等を通じた家庭への啓発を強化したい。進路指導においては、ICTツールの家庭活用を促すとともに、専門家等の外部人材を積極的に導入すべきである。また、学校行事やボランティア活動の分析には長期的な視点を取り入れ、単年度の比較に陥らない対策が求められている。これらの意見を真摯に受け止め、安心安全メールやSNSを駆使した迅速な情報発信により家庭・地域との連携を一層密にすることで、中・長期的なビジョンに立った本校の在り方を確立していく。

7 次年度へ向けての課題と方策

生徒目標「高きを求める情熱」のもと、「文武両道」を体現すべく学習と部活動の両立を徹底していく。県東部を代表する総合高校として、普通科における進路意識を高める特色化に加え、薬業科・商業科・海洋科が持つ専門性の伝統を継承しつつ、さらなる進化を追求し、地域社会へ本校の魅力を広く発信するとともに、中学生が強く憧れる高校像を確立していく。

特に、教育活動の目標数値については、新たなデータ分析手法を導入することで、個々の生徒に寄り添った具体的な指導に直結するように工夫していきたい。学校評議員からの多角的な提言を真摯に受け止め、本校が目指すべき「次世代の姿」への進化を具現化し、全校を挙げて力強く推進していきたい。

(様式5)

8 学校アクションプラン

1学習活動 2学校生活 3進路支援 4特別活動 5その他

令和7年度 滑川高等学校アクションプランー1ー		
重点項目	1学習活動(1)学習指導、一部(2)その他を含む	
重点課題	スクールポリシーへの理解をより広くし、学習面でポリシー実現を目指す	
現 状	<ul style="list-style-type: none">・教務規程に沿った校務支援システムの運用体制が整備されたが、引き続き入力や点検のための業務負担が大きい。・本校のポリシーに沿った前向きな学び調査では、自律心を持っていないと感じる生徒が多いことが数値で示され、恒常的な課題と認められている。・ICT機器を用いた授業が定着している反面、接続環境や視聴覚機器の整備ができていない教室での授業がある。・最前線に立つ学級担任の面接時間確保に課題がある。不登校や起立性調節障害、友人関係から生じるトラブルを訴える生徒・保護者への対応に追われ、個別最適な学びへの負担は大きいと感じる。	
達成目標	①スクールポリシーの実現が「高きを求める情熱」の実現につながる。このことへの理解を増やす。 ②教職員は、民主的な手続きでポリシーが決定されていることを知っている。教育活動ごとにルーブリックに反映させ「見える化」することで一層身近に活用できるよう工夫する。	③学びに向かう力が測れる「前向きな学びアンケート」を継続する。 ④時間割での教室割り当て作業を改善する。 ⑤健全に学習に向かえないと訴える生徒の状況をより早く把握し、未然に解決や改善につなげられる方策がないか検討する。
	①詳細が書かれたルーブリックに教育活動の事例を添えた。これにより教育活動で身につく力や心を見える化し、一層の理解に努める。	③調査によって得た統計的な数値が、多様な学びを推進する本校生徒を表せるものとなりたい。また、課題である自律心を育む方法にも言及したい。
方 策	<ul style="list-style-type: none">・授業ではグループワークや、タブレットを用いたICT教育などを取り入れた授業展開を推奨・推進する。・生徒の評価方法や授業のあり方等について情報共有に努める。・年間指導計画の観点別評価に繋がる指導法を常に工夫する。	<ul style="list-style-type: none">・学年及び情報部、進路指導部等と連携し学びに向かう力の向上のための対策を講じる。・学習課題を個々に指導し、精度をいかに高められるか、主体的に学ぶ意欲を高めさせる方法を研究する。・昨年度に引き続き、任意の2学級の学業成績で「主体的に学習に取り組む態度」の評価がCであった科目数、人数を抽出する。
達成度	<ul style="list-style-type: none">・互見授業は6月、11月に実施し、延べ55名が参観した。スクールポリシーに寄与する授業の取り組みを推奨した。・ルーブリックに対する理解や認識が広がった。	<ul style="list-style-type: none">・3年間のアンケートにより、延べ3,100人超のデータが集まり、3年生の追跡調査が可能となった。・ごく一部に学習に向かう以前の問題を持つ生徒がいる事を把握できた。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・互見授業では、ICT機器を効果的に利用し対話型やペアワーク型の授業が行われた。また、知識・技能だけではなく、探究力・思考力・協働力が養われる授業が行われた。	<ul style="list-style-type: none">・R5年入生を追跡すると学びに向かう自律心が学年を追うごとに向上したことがわかった。学びに向かう力は2.90→3.05に、自律心は良くなったと回答した生徒数が5.5%上昇した。・生徒の一部に家族の手伝いや支援に時間がとられていると回答している状況がある。
評 価	B 調査内容を大きく見直して3年になり、一定の理解が広がっている。	A ルーブリックに沿った力や心の向上にエビデンスを得た初めての試みだった。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none">・自律心の向上が数値で確認できたことを評価する。・生徒の向上心、自律心を一層育むために「総合的な探究の時間」をより積極的に活用してほしい。・ICT関連のハードが未整備の部分について、その改善を県に要望してほしい。・学力向上以外にも、社会性、礼儀など、学校と保護者とがチームで指導にあたれるようにしたい。	
次年度へ向けての課題	目標設定の見直しや生徒の心身の内的な成長を1年間、3年間といった区切りで客観的に測れる方法がないか検討したい。	次のR6入生が学習面での前向きな取り組みが行われているか追跡し、諸調査とリンクすることができないか考えたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

令和7年度 滑川高等学校アクションプラン2-2

重点項目	2学校生活 (6)生徒指導(7)保健指導	
重点課題	・スマホの適切な使用と自己管理能力の育成 ・環境美化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ等の長時間の利用によるネット依存や学習習慣の乱れが散見される。また安易に SNS で写真や動画を挙げたり、個人情報の取り扱いが不適切な書き込みをしたりするなど、利用マナーやモラルの欠如がみられる。 ・環境整備に取り組む姿勢は全体的には良くなっているが、清掃開始が遅れたり、清掃活動に積極的に参加できない生徒もみられる。 	
達成目標	①スマホ等の使用に関する自己管理能力の育成とネット上のルールやマナーの徹底を図る。また利用に伴う危険性についての認識を高めるとともに、トラブルに対する対処法等について身につける。 ②スマホ等の利用の際に危険性を認識しながら利用している生徒の割合 80%以上。	環境美化委員会を中心とした美化活動の推進。 年間 8 回の活動を計画し、以下の内容を実施する。 ・各学期の美化週間における清掃活動 ・6月：中庭への花植え ・7月8月：除草および水やり ・8月・12月：長期休業中における部活動生徒によるトイレ・更衣室の清掃
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導通信や集会等を利用し生徒への注意喚起を行うとともに、風紀委員や生徒会による使用のルール作りなど自発的な活動により意識づけを行う。 ・適切な利用について家庭でのルールづくりを推奨し、ネットトラブルへの未然防止を図る。 ・講習会や研修会等を開催し、ネットに関かわる危険性を周知させるとともに、トラブルへの対処法などを身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化週間を学期に 1 回設定し、環境美化委員会を中心として、外清掃を含む清掃活動の強化を図る。 ・日常的に清掃を中心とした環境美化において、全教職員でさらに粘り強く指導する。 ・花壇や中庭などの整備を行うことにより、情操教育の一助とする。
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のスマホの使用は減っているが、休み時間や昼休みに使用している生徒がおり、ルールの徹底が必要である。 ・スマホの危険性やトラブルについてのアンケートを実施し、実態の把握に努めた。危険性について 96.8%の生徒が様々な機会から知識を得ているという結果であった。しかし、詐欺や高額請求などに遭いそうになったり、SNS のトラブルになったりした生徒もおり、4.5%が悩みを抱えている現状がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化週間については、学校全体で組織的に取り組み、計画どおりに実施することができた。 ・清掃活動では、ごみの分別を徹底するなど、全教職員が丁寧な指導を行った。 ・中庭の整備については、6月に環境美化委員が除草を行い、その後植栽を実施した。水やり当番を決めて継続的に管理し、12月まで花を咲かせることができた。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホの適切な使用について 1 年生の入学当初に講習会を行った。全学年には警察の講習や、集会・教室で危険性やトラブルに対する啓発指導を繰り返し行った。教職員間の共通理解をもとに、校内巡視等で徹底指導した。 ・全校生徒対象のアンケート結果をもとに、家庭でのルールづくりやフィルタリング設定を行うよう指導した。また「生徒指導通信」や長期休業中の「しおり」等で、使用方法やトラブルへの対処法などの注意喚起を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化週間においては、環境美化委員が期間開始前にクラス全体へ趣旨や目的を説明し、期間中も毎日、全校放送で清掃の徹底を呼びかけた。
評 価	B <ul style="list-style-type: none"> ・スマホの使用時間や違反件数は、昨年度とほとんど変わりはないが、1年生に関しては、ルールやマナーの確認や意識付けを図る必要がある。 ・スマホの危険性への認識は高まった。しかし、新たな手口も多く、危険な場面に遭遇したり実際にトラブルに巻き込まれている。今後も継続的な指導が必要である。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員や保健委員が主体的に環境整備や美化活動に取り組み、学校全体の活動へとつなげる工夫を行った。 ・清掃活動には、全校生徒が積極的に参加し、意識の向上が見られた。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ利用の危険性について、生徒の認知度が向上していることを評価する。 ・スマホのフィルタリング徹底など、保護者の理解と協力を得ながら着実に進めていってほしい。 ・環境美化委員の自主的活動について、大いに評価する。 ・環境美化の取り組みを、学校から周辺地域へと拡大してもらえるとよい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会などを通じ、スマホの使用について、ルールやマナーを遵守するように意識を高める。 ・スマホの使用について個人や家庭でルールを決め、フィルタリング設定を行うなど、家庭と共通理解を図りながら指導する。 ・トラブルの未然防止のために、使用方法や実際の対処法や相談先など理解させ、自己管理能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動やごみの分別指導を強化し、環境美化のさらなる徹底と、落ち着いた学習環境の向上を図る。 ・清掃用具等の適切な補充を行い、生徒の内発的動機づけを促すことで、清掃活動への意識を高め、環境美化の推進を図る。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

令和7年度 滑川高等学校アクションプランー 3ー

重点項目	3 進路支援 (4)進路指導	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標の早期設定と進路実現に向けた支援 進学・就職に関する情報収集及びそれらを活かした進路指導・支援の充実 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な進路目標を定める時期が遅いため、実現に向けて取り組む時間が十分確保できない生徒が多い。 進路目標達成のために、今何をすべきかを考え、見通しをもって実践できる生徒が少ない。 	
達成目標	① 2年3学期までに具体的な志望校、志望学部・学科を決める生徒の割合 ② 第1志望校への合格率(3年9月志望) ③ 大学や入試に関する情報収集および生徒一人一人の進路実現に向けた指導・支援の充実	④ 希望する職種への内定率 ⑤ 多様な生徒の進路指導に対応できる体制づくり
	① 70%以上 ② 70%以上 ③ 90%以上	④ 100% ⑤ 100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 進路面談を適宜行う。 進路講話や出前授業、研修旅行、大学訪問などの行事を充実させ、進路意識を高める。 オープンキャンパスへの積極的参加を促す。 校内テストや外部模試の結果を基に自分の学力を把握させ、一層の努力を促す。 大手予備校からの情報や各種学校説明会で得た情報を教員間で共有し、指導に活かす。 教科補習、個別学習指導、面接指導等を全教員で行う。 校内研修会を行い、教員の指導力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の様々な場面において礼儀やコミュニケーション能力など社会人として求められる力が身に付くよう指導を行う。 生徒が自己の能力や適性を知り、どのような職種・企業でそれらを発揮できるのか考える機会を与える。 教員が企業訪問を行い、求人情報や卒業生の情報の収集に努める。 就職試験に向けた指導を進路指導部、各科、学年で連携して行う。 企業だけでなく、キャリア就職アドバイザーやハローワーク関係者との連絡を密にして就職内定および将来も見据えたキャリアの支援を行う。
達 成 度	① 普通科 97.2% 薬業科 93.8% 商業科 96.3% 海洋科 93.8% ② 年内入試において 普通科 65.5% 薬業科 91.7% 商業科 92.0% 海洋科 100% ③ 概ね達成できた。	④ 95.2% (42名の就職希望者の内、一般企業 37名と公務員希望者3名が内定) 一般企業希望者2名が就職準備中 ⑤ 達成不十分な点が見られた。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が上級学校での学びや将来の職業への興味・関心を高められるように、大学訪問や模擬授業、外部講師による職業講話を実施した。 2年普通科では「クラッシー」を導入し、模試の振り返り等に活用した。 入試に向けて、個別指導(面接・小論文)や補習授業(教科)を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の指導スキルを高めるために、外部講師による研修会を行った。 3年専門学科の「職場の先輩と語る会」では例年より勤務年数の長い講師の派遣を依頼し就職後のキャリアへの意識づけを促した。 3年生に進路アンケートを実施し、生徒の進路意識や考え及び本校の進路指導に対する意見を集約した。
評 価	① A ② B ③ B ・現3年生の大半が2年3学期までに具体的な進路先を考えている。 ・普通科の年内入試の合格率は昨年より下がったが、生徒が高い目標を掲げ、挑戦した結果と言える。	④ B ⑤ C ・内定者全員が希望職種に内定した。 ・学年、科の枠を越えて、多くの教員の協力体制のもと、進路指導を行った。 ・生徒の多様化する進路に対し、新たな取組が必要と思われる。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 4つの学科の達成目標を数値化することで明瞭となっていることを評価する。 クラッシーなどを校務効率化、保護者とのコミュニケーションツールとして活用してほしい。 ICTによる家庭学習の促進や外部人材の活用、学科横断的な指導体制の強化を図ってほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が将来に希望を持ち、進路実現に向けて積極的に取り組めるように支援する。 「スタディ・サプリ」と「クラッシー」それぞれのメリット・デメリットを検証し、今後の活用について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会が求める人材の視点を取り入れながら生徒自身が納得できる進路目標の達成に向けて支援する。 アンケートの結果から、本校の進路指導や進路行事のあり方を検討する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

重点項目	4 特別活動 (5) 特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会・ホームルーム・部活動において、自主的な活動を促し、リーダーシップを養成する。 ボランティア活動に積極的に参加する。 部活動と学業を両立し、困難に負けない人間性を育む。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 指示を聞いて正しく行動をとることのできる生徒は増えたが、自らがリーダーとなって責任を果たそうとする生徒が少ない。 学校行事に熱心に取り組む生徒は多い。しかし、与えられた活動に乗るだけで、自ら改善点を考えたり、アイデアを出したり、向上させようとする生徒が少ない。 ボランティア活動への参加は、一部の科・部活動に限られている。 部活動は原則全員加入制を採用しており、高い目標を持って熱心に取り組んでいる部活動が増えてきている。 学習と部活動の両立を図るための生活指導、面談が十分といえない。 	
達成目標	①学校行事やホームルーム、生徒会活動等に役割や責任を持ち、積極的に関わることができたと感じる生徒の割合	②学習と部活動の両立を目指し、自身を向上させて、部活動の内容や時間、生活リズムを工夫し、充実感を持った生徒の割合
	・80%以上	・80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 各行事において、生徒が主体的に活動できるよう動機付けをする。 組織や役割分担を明確にすることで、リーダーを育て、互いに支援し合えるように指導する。 生徒議会などを通してクラスの意見を吸い上げ、学校全体で行事や生徒会活動に関わりあえる組織作りを意識させる。 先を見通した HR 計画、またテーマの設定や討議資料の作成、事前研究などの準備を進め、その反省をする。 市や県、児童館などからのボランティアの要請を積極的に明示する。その中でも地域ボランティアの参加を積極的に促す。ホームルーム、部活動においても、ボランティア活動を行う。 生徒の主体性を尊重し、その中でルールを守り、生徒自らが学校行事、生徒会活動について、企画とアイデアを提案できるムードを作る。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの結果、学校行事に積極的に参加した生徒は「体育大会」が 83.6% (昨年 86.7%)、「文化祭や芸術鑑賞会」が 86.3% (昨年 92.6%) 「生徒会・委員会・学級の仕事に積極的に参加した生徒」が 85.3% (昨年 84.1%) と目標に達した。 「ホームルームでの活動や話し合いに積極的に参加できた」が 68.5% (昨年 76.6%) であった。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 5年ぶりの通常開催での文化祭・芸術鑑賞会であったが、生徒が中心となり部、学科、委員会等の成果を発表できる機会を設けた。 体育大会では3年生中心に取り組み、昼まで雨模様だったが、生徒が主体的に活動する場面を設けた。 ボランティア活動を積極的に呼びかけ、市との連携もあり、部活動以外の生徒でも積極的に参加することができた。 	
評 価	B	B
	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事(体育大会・学園祭・芸術鑑賞会)に積極的に参加したと答えた生徒が 85% 超。 「ホームルーム活動に積極的に参加できた」が 68.5% (昨年 76.6%) 	<ul style="list-style-type: none"> すき間時間を利用して学習している生徒が昨年を下回った。 北信越大会・全国大会に出場する生徒から、学業の成績上位者が少しずつ増えてきた。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 行事が通常開催となり、充実したことを喜ぶたい。 行事の評価は長期的な分析を行い、HR も含めて、生徒の自律心向上につなげてほしい。 ボランティア周知と文武両道を支援。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動に参加してみたい生徒が 68.0% (昨年 72.0%) で昨年を下回ったが、ボランティア活動に参加する生徒は確実に増えてきており、要請をさらにわかりやすく周知する。 学校行事やホームルーム活動で、さらに生徒の発言を促し、生徒主体の行事やルールづくりを積極的に行う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 各部で文武両道へ向けての目標設定を行い、目標に向けた活動内容を各部、各自で考えることができるような指導を行う。 練習後の速やかな帰宅を徹底させる。 各部活動を円滑に運営するために、適宜、部顧問会議やキャプテン会議を開き、諸問題について検討し、改善を図る。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

重点項目	1学習活動 3進路支援 (8)(9)(10)専門学科指導		
	< 薬 業 科 >	< 商 業 科 >	< 海 洋 科 >
重点課題	資格取得の充実	資格取得の充実	①水産関連等の資格・検定取得の推進 ②放課後アクティブラーニングの活性化
現 状	・家庭学習が不足している生徒が増えており、資格取得の意欲も減少している。 ・部活動と学業の両立を目指している。	・学習内容が新課程になって大幅に変更され、難易度も高くなり、1級の取得者が伸び悩んでいる。	①各種検定・資格試験の合格者数が伸び悩んでいる。 →自主学习時間の恒常的な不足が認められる。 ②環境活動発表や魚食振興のための外部との協働に海洋クラブが活躍する状況にある。
達成目標	・危険物乙種第4類をはじめ危険物乙種全類、品質管理検定などの各種資格検定に取り組む。	①財務会計Ⅰ、原価計算を重点科目として、全商簿記実務検定1級の合格者数。 ②3年生は3種目以上1級取得者の人数。	①水産関連等の資格・検定取得数の向上をマリンマイスター申請者数で判断する。 ②海洋クラブ活動をさらに活性化させ、 研究活動の外部発表 を行う。
	・危険物乙種第4類 1学年70% 2学年100% ・危険物乙種全類3学年90%以上を目指す ・品質管理検定の受検	①60%以上 ②70%以上	①1人年間3つ以上 ・申請率85%、プラチナ・ゴールドが申請者の35%以上 ②昨年と比較し、質（進捗）で比較。
方 策	・危険物乙種全類取得を目指し、学力補充を支援する。 ・品質管理検定に取り組む。 ・その他の資格（パソコン検、英検、漢検など）を取得するための基礎学力を充実させるよう、意識付けを行う。	・学習意欲の喚起を促す働きかけを行い、最後まで粘り強く取り組むように指導する。 ・ICTの効果的な活用。 ・習熟度別学習を効果的に活用。 ・放課後補習の実施。 ・生徒個々の能力に応じた学習支援を行う。 ・指導者間の意思の疎通を図り、バランスよく学習指導を行う。	①補習にて、資格取得のための学習を行い、意識の向上を促す。個別対応を充実させる。 ②意欲的な生徒への参加を促し、社会貢献を兼ねた継続的な活動を行う。
達成度	・50%。12月末現在で、どの学年も目標数値に届いていない。1月末の受検でも、達成が難しい状況と考えている。	①2科目同時合格による 1級会計32名合格、 1級原価計算32名合格。 2科目合格1級取得者 30名(75%) ② 18名取得で47%	①申請者12人(42.8%) ゴールド以上5人(41.7%) ②外部発表が出来ていない
具体的な取組状況	・補習や朝学習、週末課題や個別指導など、出来る方策はすべて行っている。しかしそれが成果につながっていない。	・年間を通して、計画通りに授業を進めることができた。 ・教材開発や授業の改善につとめ、生徒の授業に対するやる気を高めることに努力した。 ・個別指導による学習支援。	①漁業技術検定の受検前補習に取り組んだ。合格率94.3%。 ②2年時より研究活動に取り組み始めた。
評 価	C 3年生で危険物取扱者の資格を一切持たずに卒業する生徒がいることは問題だと考えている。	A ① D ②	C 本年度を次年度に向けた準備として活動した。
学校評議員の意見	・外部発表の取り組みについて、研究活動の成果を外に発信する姿勢を大いに評価する。 ・薬業科の地域での活躍などは、地元からの高い信頼を得ることに繋がっており誇らしい。 ・資格取得の意欲喚起のため、単に「合格」を目標にするのではなく、資格取得が将来の年収や職域にどう直結するか、具体的なキャリアパスを卒業生の事例等を用いて提示する。 ・専門科目においてAIツールを活用した授業を展開する。		
次年度へ向けての課題	・学科に所属する生徒全員に、資格の数＝努力の数という意識を徹底させること。	・分かりやすい授業を目標に、授業改善につとめる。	研究活動に取り組む教員を増やす。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

重点項目	5 その他 (12)地域との連携・協力	
重点課題	PTA 活動の活性化・情報発信の強化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 役員会について、昨年度は第1回 83% (一昨年度 74%)、第2回 75% (一昨年度 68%) 第3回 63% (一昨年度 57%) の参加率であり一昨年度を上回った。 PTA 行事への参加者数は、昨年度は PTA 総会 76名(参加率 13.1%)【一昨年度 85名(参加率 14.7%)】、進路研修会 22名 (昨年度 16名)、挨拶運動 38名 (一昨年度 19名) であった。 PTA 役員会や PTA 行事の様子を Web サイトで発信している。PTA だよりを年 3 回発行している。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> PTA 関連行事への参加率の向上 PTA 歓送迎会の教員参加率の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ①Web サイトの内容の充実 ②安心安全メールの登録増
		<ul style="list-style-type: none"> ①迅速な情報発信と内容の充実 ②全学年保護者登録 90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 案内を早めに配布する。 Web サイトに PTA 活動の様子をこまめにアップし、活動への理解・関心を高める。 PTA 役員と連携し PTA 活動への関心を高め、PTA だよりなどを通し参加を促す。 教員にも保護者との情報交換の大切さを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①Web サイトのリニューアルを終えたので、地域及び受験を考える中学生に向けた迅速な情報発信に努める。また部活動の大会結果や日々の活動内容も掲載し、学校の魅力を発信する。 ②発信の内容を見直し、発信回数を増やすとともに、保護者懇談会などで未登録者への呼びかけを随時行っていく。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 役員会は第1回 81% (昨年度 83%)、第2回 68% (昨年度 75%)、第3回 59% (昨年度 63%) の参加率であり、進路研修会の参加者は 36名 (昨年度 22名)、挨拶運動は春・秋のべ 34名 (昨年度 38名) であった。 PTA 総会の参加者は 86名 (昨年度 76名)、PTA 総会後の学年別懇談会は 181名 (昨年度 171名) であった。 PTA 歓送迎会の教員参加数は 18名 (昨年度 18名) であった。 	<ul style="list-style-type: none"> Web サイトへの情報発信がしやすくなったので、多くの新しい情報を載せることができています。 全学年保護者の登録状況は、ほぼ 100% 近くになっている。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 役員会の案内を早めに配布し、Web サイトにも掲載した。 全保護者対象の進路研修会の案内を安全メールでも呼びかけた。 会合の出欠票の提出が遅れている方には、連絡をし、全員の出欠票を回収した。 活動の様子を Web サイトに掲載した。 会長に参加を促してもらった。 歓送迎会の多くの参加を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> Web へのアップロード用のマニュアルを作成し、以前より各個での発信作業をやりやすくし、情報発信に対する温度差を縮めた。 中学生や地域の方へも有益な情報を発信できるよう、内容の精選をしている。 Instagram や X についても、情報発信の手段として活用している。
評 価	A <ul style="list-style-type: none"> 平日夕方に役員会に出席していただき、大変感謝している。役員会では、各委員会で活発な意見交換が行われた。 役員会の参加人数は減ったが、総会と研修会の参加人数が増えた。 PTA 歓送迎会の教員参加数は同数であった。 	B <ul style="list-style-type: none"> Web サイトの更新方法が簡潔に実行できるようにしたこともあり、迅速な発信に努めることができています。 安心安全メールの登録については、保護者の認知が進んでいることもあり、ほぼすべての保護者が登録している。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> PTA 参加率の向上、学年別懇談会などの活発化を評価する。 HP や SNS による情報発信が、滑川高校の活動認知の向上に繋がっていることを評価する。 PTA 運営のデジタル化と効率化のために、zoom などの Web 会議システムを導入したらどうか。 広報のタイミングを改善し、地域住民や保護者が予定を立てやすくする。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> PTA 活動の予定等を会員に早く知らせ、時間をブロックしてもらうとともに、安心メールでも発信し、参加者が増加するよう努めていく。 本校 PTA 活動状況を、さらにタイムリーにホームページで発信していく。 P と T の風通しがよくなるよう、歓送迎会の参加を促していく。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)